

管内における現状等について  
(各団体)

令和3年6月9日  
鹿児島地域振興局

# 教育

## 日置地区小中学校長会 会長（下脇 徹）

現状	課題等
<p>小・中学校においては、郷土教育を実践しており、郷土の伝統・文化・自然・人物について学び、郷土愛を育んでいる。</p> <p>キャリア教育の学習を行っており、小学校ではコミュニケーション能力や自己有用感の育成に努め、将来の夢を持たせている。また中学校では、職場体験学習などを行い、職業人としての知識や技能を高め、社会で働くことの意義について学んでいる。</p> <p>日置市においては、「ひおきふるさと教育（ひおき学）」を推進しており、郷土のよさを知り、郷土を愛し、夢をもって日置市の未来を切り拓く子供を育成することを目指している。</p>	<p>自分の故郷のよさを将来にわたって考えることのできる児童・生徒を育ていきたい。</p> <p>地元就職またはUターンしてくる人たちの、希望する職種や働き口がしっかりと確保されているか。</p> <p>高校卒業と同時に市外または県外へ出てしまう子どもも多く、ふるさとのよさを忘れてしまう子供も多いように感じる。</p> <p>児童・生徒数が減少している学校が多い。</p>

## 県立鹿児島工業高等学校 校長（大保 智）

現状	課題等
<p>本校では例年、卒業生の約8割が就職をしており、そのうち県内就職は3割未満を推移していたが、昨年度は3割超の結果となった。</p> <p>要因の一つとしては、コロナ禍による県外就職への懸念もあるかと思う中で、業界・団体等との就職ガイダンスや企業説明会、出前授業、就職体験等の効果があったのではないかと考えられる。</p> <p>求人数はコロナ禍の影響と思われるが、昨年度9年ぶりに減少となった。</p> <p>県外求人数が約9%減に対して、県内求人は約7%減となり下げ幅は県外より小さかった。</p>	<p>本校の今年3月卒業は業種別で製造業への就職が約4割と高い傾向にあるが、県外に比べて県内の就職は約2割となっている。</p> <p>県内製造業についての情報は、企業が個別で行う出前授業や先輩の話聞く会、産業立地課主催の企業説明会等であるが、県内の製造業事業所等における情報収集の場をより充実することが必要と考える。</p> <p>その中で、昨年度実施されたYoutube配信はいい取り組みであり、企業数を増やし、パンフレットと連動して動画が見られるようにするなど生徒、保護者への案内方法の工夫を行うと更に効果が期待できる。</p> <p>また、同時期に類似の企業紹介事業が実施されることもあり、学校では対応に苦慮する場合もあることから関係機関・団体等の取り組みが、学校の状況も考慮された中で実施されると、より効果的な情報提供の場になると考える。</p>

## 鹿児島情報高等学校 校長（新納 武彦）

現状	課題等
<p>本校は地域貢献のため、PBL（Project-Based Learning）「課題解決型学習」を実施し、生徒に地域や産業の理解を進めています。また、SDGsについても取組を行っており、地域が抱える問題点についても学ばせています。</p> <p>このことで、鹿児島やその産業についての意識は向上していると認識しています。また、地元で活躍したいとの思いも強くなっていると感じています。</p>	<p>企業や産業を生徒に紹介することも大事だと思いますが、若年層に鹿児島の魅力をどう発信するかが、鹿児島県に人材が定着するポイントだと考えています。</p> <p>現在、各校は地域ごとに「地域貢献」を掲げて探究授業を展開しています。新聞を見ていると高校生や大学生の活躍はとても面白いです。しかし、高校生は新聞を読みません。</p> <p>高校生・大学生目線の取組を広く若年層にアピール（SNSの活用）すれば、それ程時間と費用を掛けずに、若年層に鹿児島の魅力を発信できると思います。</p> <p>高大接続や産学連携とよく言われますが、高校や大学と鹿児島県がもっと繋がるのが大事ではないかと思っています。本校では県や市との連携は行っています。</p>

## 医療・保育・介護

### 鹿児島医療技術専門学校 副校長（濱川 孝二）

現状	課題等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ R2年度県内就業率：55.1%（721人/1472人）</li> <li>  * 国の平均：72.9%</li> <li>・ 就労場所：病院診療所</li> <li>・ 就労する施設を選択した理由（上位3項目）</li> <li>  1. 貸与を受けている修学資金奨学金の返還免除対象施設（301人）</li> <li>  2. 自宅・実家から近い（139人）</li> <li>  3. 働きたい診療科・部署がある（136人）</li> <li>* 県内県外問わずに「修学資金奨学金の貸与施設」が最多であり、県外の施設にした理由も病院等施設の奨学金が多い。</li> <li>・ 県外に就労する学生の約2割が戻ってきたいと回答している。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 県内就業者をより多く確保するために、看護学校への進学を決定する前、あるいは入学直後に県内施設の奨学金等の情報を提供して活用してもらう。また、高等学校の進路の先生方へも情報提供を行う。</li> <li>2. 県内の病院・施設の情報提供（ガイダンスの開催など）を行い、看護学生への地元施設の魅力を発信する。</li> </ol>

### 一般社団法人鹿児島市保育園協会 副理事長（外園 聡子）

現状	
<p>保育士求人件数は増えるばかり。 働く女性の増加だけではなく企業主導型保育所の乱立により保育士の採用が難しくなっているのではないかと、という意見もある。 コロナにより、県外への就職希望が減ったという話もあるが、今後、更なる少子化へ拍車をかけるのではと心配する。</p>	<p>中高生へ、保育士の魅力発信できる場をと思うが、交渉先がわからない。</p>

### 特別養護老人ホーム潮風園 事務長（溜池 一孝）

現状	課題等
<p>コロナ発生前から、介護に対するマイナスイメージもあるのか、介護士・看護師・調理員・介護支援専門員などの採用が困難になってきています。 求人を出しても採用できず、採用に至るまで数か月かかることも多くなっています。 高校や専門学校の新卒採用も年々少なくなっており、福祉系の学校への入学者も減少しています。 ハローワークだけでなく派遣や人材紹介、高校生等向けのガイダンスへの参加、中には外国人技能実習制度を活用して外国人を雇用している法人もあります。 また、職員紹介を奨励し、紹介者・採用者ともに奨励金を支給、就職時に係る費用を支度金として支給している法人もあります。 コロナの影響で、学生への実習や職場体験など実施することができず、学生への福祉の魅力をアピールする場がなくなり、新卒者の採用減につながっています。 コロナで失業された方々の受け皿になれるのではと期待していましたが、リーマンショック時のような異業種からの転職がコロナでは少なく感じます。</p>	<p>介護に対するマイナスイメージの払しょくと学生や保護者に介護の魅力アピールする場の確保。 介護未経験者や異業種からの転職者の定着率の向上。</p>

# 農業・林業・建設業・商工業

鹿児島みらい農業協同組合代表理事組合長（村山 眞一郎）

現状	課題等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年の採用状況を見ると、当組合の応募者数は年々減少傾向にあり、採用予定人数を大きく下回る年度もあった。これは、当組合だけではなく、他企業でも同じことが言えるのではないか。</li> <li>・地元への就職については、県内学校の在学生の約7割～8割は地元志向が強いと聞く。また、コロナ禍の中で、地元への就職希望の学生が今後増えてくるのではないかと考える。しかしながら、まだ2～3割の学生は県外に目を向けているのが現状である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当組合への就職という点では、当組合の魅力発信不足だと感じている。学生は、有り余るツールを活用して企業の情報を集めると思うので、様々なツールを使った魅力発信が採用において重要だと考える。</li> <li>・地元への就職については、上記と同様、鹿児島の魅力を若い世代へもっと発信することがまずは必要であると考えます。また、学生のうちから鹿児島についてもっと「触れる・学ぶ」などの取り組みが多くあるといいのではないかと。その中で、若い年代の意思反映ができるような場を設け、これからの鹿児島を担っていく世代とともに魅力ある鹿児島を作ることができれば、地元定着へとつながっていくのではないかと。</li> </ul>

かごしま森林組合 参事（迫田 勇志）

現状
<p>昨年度は、コロナの関係等で、従来、地域での高校生への地元企業説明会は、動画視聴による開催となった。</p> <p>当方としては、できる限りのことは行ったと思うが、興味はあるが希望する業種、職種ではないのかなと思うところである。</p> <p>当方の新規参入者はいなかった。現業職も事務職も求人を行うもなかなかいない状況である。</p> <p>今後何に問題があるのか、洗い出して、当方のほうに目が向くように出来る努力はしていきたい。</p> <p>現状、定年延長により、事業をおこなっているところである。</p>

鹿児島県建設業協会鹿児島支部 支部長（谷口 明広）

現状	課題等
<p>建設産業は、地域のインフラ整備やメンテナンス等の担い手であると同時に地域の経済や雇用を支え、災害時には最前線で地域社会の安全・安心を確保する地域の守り手として、県民生活や社会経済を支える大きな役割を担っているが、建設業の担い手である技術者や技能者について、若年の入職者が減少するとともに従事者の高齢化が急速に進行している。</p>	<p>地方公共団体の建設行政の円滑かつ効率的な執行のためにも、次の世代の担い手確保・育成は喫緊の課題である。</p> <p>そのために鹿児島県建設業協会では、担い手確保（入職支援）事業、担い手育成・定着事業、建設業魅力発信事業等を行い、地域経済・雇用を支える建設業が、持続的に「地域の担い手」として役割を果たせるよう、担い手の確保・育成・定着の促進を図っている。</p>

セイカ食品株式会社 代表取締役社長（玉川 浩一郎）

現状
<p>現在の学生の雰囲気として「営業職」「販売職」を敬遠する向きが強いように思います。</p> <p>販売目標（ノルマ？）に追われるというある種のネガティブイメージがあるのかもしれない。</p>